

A Graduates'  
Association News  
of  
TOHOKU INSTITUTE OF  
TECHNOLOGY

## 同窓会 第24回定時総会・懇親会

2008年10月4日(土)  
仙台ホテル(仙台市)で開催!

Kodai

Jin

- 1 ●ごあいさつ  
新学長 沢田 康次氏  
新副学長 今野 弘氏
- 5 ●特集／恩師からの便り  
知能エレクトロニクス学科 杉田 愼氏  
情報通信工学科 宮崎 清則氏  
環境情報工学科 田頭 功氏  
デザイン工学科 吉田 旺弘氏

- 9 ●活躍する工大人  
青森県立弘前工高 建築科長 蝦名 博氏  
青森県立弘前工高 インテリア科教諭 藤田 安紀氏  
福島県立福島工高 機械科教諭 廣瀬 修一氏  
仙台市立仙台工高 土木科教諭 高橋 拓栄氏  
(株) 株式会社東日本エンジニアリング 東北 鈴木 明氏  
(株) 阿部和工務店 船山 克也氏  
サイデック(株) 柴田 浩人氏  
東日本旅客鉄道(株) 東北工事事務所 村上 智美氏

- 17 ●工大人同窓会・座談会  
(株) 阿部和工務店

- 23 ●インターンシップ体験記

- 25 ●支部活動報告  
青森県支部  
新潟県支部

- 27 ●同窓会事務局からのお知らせ

## 学長から卒業生の皆様へ



学長  
**沢田 康次**（さわだ やすじ）氏  
1937 年 10 月生 大阪府出身  
1962 年 3 月 東京大学大学院  
工学研究科電子工学 修了  
ペンシルバニア大学  
大学院物理学教室博士課程修了  
1966 年 8 月 東北大学 教授  
1973 年 10 月 東北大学 教授  
2001 年 4 月 東北工業大学 教授  
2006 年 4 月 東北工業大学 副学長  
2008 年 4 月 東北工業大学 学長

本年 4 月から学長に就任しました沢田です。同窓会会員の皆様にはお元気で各方面にご活躍のこととお慶び申し上げます。

ご存知のとおり大学を取り巻く環境はとても速く変化しています。3 年間何もしないと忘れられてしまうほどです。その原因は、少子化、国立大学が法人化したことに加えて、経済活動の 2 極化と理工学系離れが追い打ちをかけています。

そのような状況の中でも同窓生の皆様に本学を卒業されたことを誇りに思っていただけのように魅力を高めるのが、学長の役目です。

今年度から、長町キャンパス（旧称二ツ沢キャンパス）に「ライフデザイン学部」を新設しましたのもその一つです。こ

の学部はデザイン系 2 学科「クリエイティブデザイン学科」「安全安心生活デザイン学科」と文理融合分野の「経営コミュニケーション学科」からなり、人間の方面から見た新しい工学を目指しています。今年度の志願者は予想を上回りました。また、キャンパスのハードウェアの整備も順調で、八木山キャンパス（旧香澄町キャンパス）も 1 号館の新築や学生食堂の改装など、見違えるような美しい学園になったと評判です。同窓会会員の皆様、是非、近いうちにご来学いただければとお待ちしております。

今後は、このような本学の整備とともに同窓会との連携を強化したいと考えています。そのためには、本学で何が起

きているかを皆様にお知らせすることがまず大切と考えましたので、本学の広報誌「工大広報」をお届けいたします。

本学のホームページと合わせてご覧いただき、忌憚のないご意見をいただきたくお願い申し上げます。



八木山キャンパス新 1 号館にて

# 「外に居て、見えてくる中のこと」



副学長・建設システム工学科教授

**今野 弘** (こんの ひろし) 氏  
 1949 年 1 月 宮城県生まれ  
 1971 年 3 月 東北工業大学工学部  
 土木工学科卒  
 1976 年 3 月 東北大学大学院博士前期課程  
 土木工学科修了  
 1976 年 4 月～1979 年 3 月 東北大学大学院博士後期課程  
 土木工学科  
 1995 年 4 月 東北工業大学 教授  
 2002 年 4 月～2008 年 3 月 教務部長  
 2008 年 4 月 副学長

昭和から平成に替わるとき、私は海外に居た。当時の厚生省から水道分野のプロジェクトメンバーとしてバンコクに派遣されて、一年半大学を離れたときである。

中に居るとあまり見えないことも、対照があるとその違いが明らかになることは、多くの方が経験している。私は昭和42(1967)年4月に本学に入学以来、大学以外の職歴は、このタイでの一年半だけである。日本とはいろいろな違いがあったことで、いわゆるカルチャーショックなるものも体験したが、日本のこと、本学のことなど通常は感じることの少なかった周りのことが見えて、得られることも多かった。これ以後タイは第二の故国になったのである。

この体験を学生に味わってもらう機会が、同じタイを舞台に訪れようとは予想だになかった。昨年6月にバンコクに開設された泰日工業大学(TNI)は、設立母体が日本に留学したタイ人OB組織で日本に近く、工学部をベースにして本学と共通学科が多く、学生数も3,000人程度など本学と多くの点で類似している。副学長は東北大学への留学経験があり、仙台に友人もいるという。

本学は、日本とタイ修好120周年という昨年10月に、このTNIと学術交流協定を締結し、その活動の一環として、今年の8月末に、沢田学長他7人の教職員と8名の学生で訪タイし、学術シンポジウムを開催した。学生は5日

という短い滞在ではあったが、タイ人学生との交流から得た体験は、今後の人格形成や社会貢献に活かされると思う。本学にとっても、海外から期待される大学を目指すことは、本学の教育および研究に活力を与えることと期待している。

本学の卒業生は、特に東北地方の産業界では質、量ともトップの地位にあり、後輩や

在学生にとっては誇りであり、大きな励みとなっている。同窓会の方々は、本学を外から見て評価する大切な「外部評価委員」である。本学の至らない点についてご助言をいただきながら、中にいる者として微力を尽くしたい。



今野副学長シンポジウムにて



## 近況報告

知能エレクトロニクス学科

**杉田 愼** (すぎた ゆたか) 氏

1937 年 東京生まれ、1940 年仙台移住。

1960 ～ 1997 年

日立製作所中央研究所勤務  
(途中 6 年間、日立研究所)

1997 年 東北大学電気通信研究所教授

2000 年 東北工業大学教授

2008 年 退職、名誉教授

工大に 8 年間お世話になり、去る 3 月 31 日に退職いたしました。この 8 年間は、授業や卒業研修、新入生研修、就職の世話などで、かなり忙しくはありましたが、充実した毎日を送ることができました。工大を離れて 4 ヶ月たった今ふり返ってみると、学生諸君や同僚の先生方と共に生き生きと暮らしている自分を思い出すことができます。

さて「毎日が日曜日」になった現在ですが、正直なところまだ生き方が十分に定まりません。幸か不幸か、時間だけは十分にありますので、得意であったテニスと様々な分野の本を読むこと、昔の友人達との交流などを始めたところです。

テニスは 30 才の時に始めて以後約 30 年間、テニスクラブと会社のチームでほとんど土日まじめにやっていました。この 10 年間は完全にブランクで、先日クラブでラケットを握ったところ、まともにボールが飛びません。週に 1 ～ 2 回遊んでいますが、2 ～ 3 ヶ月たっても、一向に昔にもどるけはいがありません。脚力や視力の劣化は当然あるでしょうが、テニスとはこんなに

難しいスポーツであったかと痛感しています(写真)。

読書の方は、小説や数学、生物学、天文学、考古学など実に面白い本があり、有意義でした。その中でも特にサイモン・シン著「フェルマーの最終定理」は 350 年の謎の解明に挑戦した英国人数学者アンドルー・ワイルズの苦闘の 8 年間の話で、感銘深いものでした。数論の中でも孤立してあまり他へのインパクトがなさそうなフェルマーの定理をより広い重要概念に拡張した谷山・志村の予想が証明の鍵となりました。この予想の証明はほとんど不可能と思われていましたが、40 才のワイルズが種々の方法を総合して成功しました。最後の難関も米澤の手法で突破しました。谷山・志村、米澤など数論の分野の数学者は本当に世界のトップであったことを認識し、誇りに思いました。

70 代に入ると、小・中・高・大学の同期会がひんぱんに開かれるようになりました。例えば瞬時に昔にもどれ、文句なく楽しいものです。

## 大学院生との出会い



情報通信工学科

**宮崎 清則** (みやさき きよのり) 氏

1941 年 2 月 仙台市生まれ

1966 年 3 月 東北大学工学部通信工学科卒

1968 年 4 月 東北工業大学 助手

1988 年 4 月 東北工業大学 教授

2007 年 3 月 退職

2007 年 4 月 本学非常勤講師～現在に至る

2008 年 4 月 本学名誉教授

東北工業大学を昨年 3 月に退職いたしました。現在、当大学院の非常勤講師として講義を担当させていただいております。在職のときは、違った緊張感とたのしさを感じながら、向学心旺盛な学生諸君に接しております。

在職 39 年間を振り返ると、大学院との関わりが印象的です。思い出の一つとして、私が所属していた大学院(通信工学専攻)の学生諸君について、お話をさせていただきます。

通信工学専攻には、通信工学と、情報工学の二つの研究分野があり、先生方は、体得した研究手法を基に、問題点の抽出法やその解決法を学生に熱心に指導しています。学生はそれに応えて、他律的ではなく、自主的に勉学に取り組んでおり、自ら学習する能力、知識を総合化する能力、表現する能力を身に着

けようと、日夜、頑張っています。また、学生は学会や若手研究会などの外部で開催される研究発表会に積極的に参加し、感性豊かな若い時代を、実り多いものに変えようとしています。2 年間の研究結果の集大成となる修士論文発表会では、その成果には、目を見張るものがあり、成長の早さに驚かされます。活躍する大学院生の存在は、学部学生にも、プラス効果をもたらしていることを強く感じます。しかしながら、進学者が、集まらない問題があります。いま、大学院では、勉学意欲が旺盛で、専門基礎知識をもっている資質の高い学生の確保に精力的に取り組んでいると伺っております。OB 諸君の進学も歓迎しています。

学部と大学院の志願者数が増え、大学全体が、益々、活性化することを願っています。

## 工大人のご活躍に 敬意を表して



環境情報工学科

田頭 功 (でんどう いさお) 氏

1938 年 北海道生まれ  
1963 年 東北大学工学部通信工学科卒  
1963 年 東北大学工学部助手  
1970 年 講師  
1981 年 教授  
2008 年 退職・名誉教授

東北工業大学のキャンパスは最近きれいに整備され、学内をのびのびと闊歩する学生には40年前とは格段の違いを感じるこのごろです。昭和45年に電子工学科に着任したころを思うとき、「あのころの学生たちは恵まれていなかったのだろうか」とふと感じることもあります。当時の学生の周辺には荒削りながら活気ある雰囲気が満ち溢れていたことが懐かしく思い出されます。

平成12年に新設の環境情報工学科に移籍し、エレクトロニクス入門、データ計測伝送、データ圧縮技術などを担当し、かつての電子工学科で電子回路を講義していたころとは様子はかわりましたが、一貫して「学生のみなさんが社会に出てから10年後、さ

らにその後も役立つことを身に着けてほしい」と心がけてみなさんに長年接してきました。いまのみなさんには何か役に立っていることがあるでしょうか。風の便りや手紙などで卒業生のみなさんが活躍されていることを耳にするときは大変幸せな気持ちになります。

この3月に退職しましたが、週に1回の講義のほかこれまでにやり残してきた研究を客員研究員として毎日のように続けております。緑にあふれる竜ノ口溪谷の森、小鳥たちのさえずり、動物公園のアシカの鳴き声、遊園地のざわめきなど八木山の自然はかわっていませんが、一新した大学をぜひ一度お訪ねください。

工大人のみなさんの益々のご活躍を期待申し上げます。



八木山の風景

## 真の「自由人」になったらの楽しみ



デザイン工学科

吉田 旺弘 (よしだ あきひろ) 氏

1940 年 5 月 東京都生まれ  
1967 年 3 月 東北大学工学部建築学科卒  
1967 年 4 月 東北工業大学助手  
2003 年 4 月 教授  
2006 年 4 月 学生部長  
2008 年 3 月 退職  
2008 年 4 月 名誉教授

1967年に工業意匠学科(現デザイン工学科)が創設された時に東北工業大学に就職して41年在職し、この3月に定年退職しました。その間、数多くの素晴らしい学生諸君に出会えたことが大いに励みになり長い間頑張れた大きな理由でした。良い思い出をたくさん作ることもできました。

4月からはデザイン工学科の非常勤講師として授業を担当しながら、新しく誕生したライフデザイン学部のある研究室の仕事を手伝えるために週3回ほど長町キャンパスに通っています。これまで長く大学に通っていたせいでしょうか、校舎に入り机に座ると不思議なことにホッとしたりします。習性になっているのでしょうか。

一方で、東北工業大学一番町ロビーで市民の方々に向けてのカラーコーディネーションに関する公開講座を担当しています。週1回のペースで5～6月に6

回、9～10月に6回実施しています。検定を受検してカラーコーディネーターのライセンスを取得する勉強のお手伝いです。市民の方々との授業は、学生諸君とのそれとはまた違った刺激があって楽しくやっています。

全くの自由人とはいかないまでも時間に余裕ができて気分的に楽な生活であることを実感しています。ただ、退職して仕事を離れたら趣味で集めたレコード・コレクション(ジャズのLPやCD)のデータベースを完成させる、テニスをする、映画を見る、小旅行を楽しむというような目論見にはまだ着手できていません。真の自由人になれましたら、自分の好きなことに没頭するようになるでしょう。



一番町ロビーで「リカレント講座」を担当

## 高校での 建築教育を通じて



青森県立弘前工高 教諭 建築科長  
**蝦名 博** (えびな ひろし) 氏  
1959 年 青森市出身  
1981 年 建築学科卒 (12 回生、志田研究室)  
1981 年 青森県立八戸工高教諭  
青森県立南部工高教諭、青森県立  
青森工高教諭を経て  
現 在 青森県立弘前工高教諭

今春から青森県立弘前工業高等学校に建築科長として勤務しております。

前任校の青森県立青森工業高等学校には、16 年という長い間お世話になりました。その間、一級建築士を取得する機会に恵まれるとともに、校舎移転新築という一大プロジェクトに深く関わり、教員としてまた建築を志す者として、大変充実した有意義な時間を過ごすことが出来たと思っております。これも、工大での様々な出会いがあったのことに感謝しております。

建築と偏に言っても大工さんをはじめとする技能系統の仕事から現場監督に至るまで工事現場で見ることが出来る職種だけでも相当な数になります。その他、意匠設計、構造計算等の仕事があり、高校生にとっては、なかなかつかみ所のない学科だと思っております。しかし、高校・大学で学んだ基礎・基本を社会に出て磨き上げることで、縦横無尽に活躍の場が広がる特性も持っていると感じて生徒の指導にあたっております。

そのため、通常の授業以外にも建築に興味を持つ機会を

多くしようと、インターンシップや現場見学、外部からの講師による授業などに力を入れております。

さて、弘前工業高校では、2010 年に 100 周年を迎えます。激変の教育界にありながら淘汰されることなく、100 周年を迎えられることに対し、先人諸氏の御労苦に深く感謝するとともに、身が引き締まる思いです。

工大の新学部・新学科の設置にもみられます様に、時代を感じる能力とそれに対応する実行力こそが発展に繋がるものと信じ、懐が深い技術者を育成していきたいと考えております。

終わりに、東北工業大学のますますの御発展と同窓生の皆様の御活躍をお祈り申し上げます。



本校は何と言っても弘前公園のすぐ隣りに位置しているところが特徴です。全国的に有名な弘前桜祭りの期間中には、観光客の方が、敷地内に迷い込んでくるほどです。

## 現在に生きる 恩師の言葉



青森県立弘前工高 教諭  
**藤田 安紀** (ふじた やすのり) 氏  
1964 年 弘前市出身  
1986 年 工業意匠学科卒業 (舩岡研究室)  
1986 年 高等学校インテリア科 教諭  
青森県立弘前工高  
青森県立青森工高

工大を卒業後、青森県の工業高校インテリア科の教員として、22 年が経ちました。その間、弘前工業高校定時制 5 年、弘前工業高校全日制 4 年、青森工業高校へ 11 年、そして昨年弘前工業高校全日制へ転勤になり、現在インテリア科 2 年の担任をしています。工大へは、卒業生が 2 名入学し、卒業していることと思います。

工大在学時、一番印象に残っているのは、舩岡先生が工業意匠学科の製図室にいらした時におっしゃった「きれいな部屋から良いデザインが生まれる」という言葉です。当時、あまりにも乱雑で整理・整頓がされていない部屋を見ておっしゃったことと思いますが、この言葉が、今でも深く心に残っています。

最近の生徒を見ると、掃除が上手に出来ない、中学校で掃除をまともにやったことがないといった生徒が入学しています。今は、家庭でも子供部屋の掃除さえ、自分でしないという子供が増えているようです。しかし、社会に出ると「掃除で始まり掃除で終わる」が常識です。身の回りの

整理・整頓をし、いかに効率よく仕事をするかだと思っています。私は、生徒に掃除の中にも段取りがあって、仕事と同じようにしたら効率よく、きれいに終わらせることができるかを考えさせ、指導しています。

実際に教室が整理・整頓されてきれいになると、汚す生徒も少なくなり、落ち着いた環境の中で授業に集中できるようになったと思います。このように、環境を整備することがデザインの第一歩だと考えています。これからも、良い環境のもとですばらしいデザインが生まれることを期待して、日々努力していきたいと思っています。

工大もライフデザイン学部が誕生し、これから益々のご発展と同窓生の皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

## 生徒と共に



福島県立福島工高 機械科 教諭

**廣瀬 修一**（ひろせ しゅういち）氏

1968 年 福島県いわき市小名浜生まれ  
1986 年 福島県立福島工高 機械科卒業  
1990 年 工業意匠学科卒業  
1990 年 福島県立二本松工高機械科、小高工  
高機械科勤務を経て  
現 在 福島工高機械科勤務（野球部監督）

高校教員を目指して、工大の工業意匠学科への進学を決意。工大では空間系の外岡研究室に所属し、多くのことを学びました。“夜の研修会”など、学生一人一人の将来を考えた先生方の御指導に深く感謝しております。私の妻も工大（外岡研究室）の卒業生でもあり、お酒を飲みながら研究室の仲間と語り合った当時の事が懐かしく思い出されます。

卒業後念願の高校教員となり、今年で18年目となります。クラス担任として卒業生を4度送り出すことも出来ました。とてもやりがいのある仕事でもあり、部活動に学習活動に生徒と共に楽しい日々を送っています。

前任校の小高工高校では、12年間野球部の監督を務め、東北大会出場、県大会ベスト4、ベスト8にも何度か進出することができましたが残念ながら県の頂点に立つことはで

きませんでした。

現在勤務する福島工高の校務分掌は生徒指導部副部長、施設部副部長、野球部の監督です。教え子の中には、工大に進学し教員を目指している生徒もいます。目標の実現に向けて頑張っていると思います。野球部の監督2年目となりますが、なかなか公式戦で勝つことができません。チーム一丸となって勝利を目指す姿（ひとりひとりの努力）がまだまだ足りません。自分自身の母校でもあり、前向きに努力することの大切さを教え、生徒と共に多くのことを学び、成長し甲子園出場を目指していきたいと思っています。

今後も教員として産業界で活躍できる人材の育成に努めていきたいと考えています。

工大の益々のご発展と同窓生の皆様の活躍を心からお祈り申し上げます。



福島工高登山



小高工高野球部

## ものづくりを通して



仙台市立仙台工高 土木科 教諭

**高橋 拓栄**（たかはし たくえい）氏

1966 年 宮城県石巻市出身  
1988 年 土木工学科卒（外門研）  
現 在 仙台市立仙台工高勤務

”光陰矢のごとし”とは言いますが大学卒業後、20年が経過し、教員生活も折り返しを過ぎ中堅として慌ただしく生活しています。

この20年間で社会情勢は大きく変化し、それは教育現場も同様です。少子化による学校の統廃合、総合学科の導入など変革の波が押し寄せ、本校も例外ではなく、現在、デュアルシステム（働きながら学ぶ、学びながら働く）の導入に向け取り組んでいます。

入学する生徒も様変わりしてきました。新任当時、クラスの生徒の約9割以上が建設系に就職・進学していましたが、現在では、建設系に就職・土木系に進学しない生徒の増加など、土木を教える側としてはジレンマに陥ることも度々あります。

しかし、決して悪い話ばかりではありません。土木の道へ進む生徒や意欲のある生徒も数多くいます。今年度は、”コ

ンクリートカーヌーの全国大会に出たい”という意欲のある生徒達と共に、8月30日に行われる「土木学会関東支部主催 第14回土木系学生によるコンクリートカーヌー大会」に向け、生徒達は夏休み返上で制作中です。

このように意欲のある生徒達だけでなく、ものづくりを通して土木への興味関心を惹き付け、将来、Civil Engineerとして活躍できる人を育てられればと思っています。また、先ほどは生徒も様変わりしていると述べましたが、卒業後、何らかの形で来校した時の成長した姿、キラキラとした目の輝きは今も昔も何も変わってはいません。卒業後、1人でも多くの卒業生のその姿を見ることが、教員としての喜びとなっています。

最後に、工大の益々の発展と、同窓生の皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。



制作中のコンクリート打設後のカーヌー

## 高速道路とともに



株式会社東北日本エンジニアリング 東北  
管理事業部道路管理センター施設制御室  
**鈴木 明** (すずき あきら) 氏

1951年 宮城県出身  
1975年 通信工学科卒業(橋本・古賀研究室)  
1975年 日本高速道路施設管理株式会社  
1980年 仙台道路エンジニア株式会社  
2008年 現在に至る

学生時代もっぱらサイクリングクラブでの自転車による旅行に明け暮れ仲間との酒宴も欠かさず、おかげで見聞やわずかな体力もつきました。

就職時期になり机上業務や営業マンは自分には向いていないとの希望を就職担当の先生に伝えたと、東京の会社を紹介され、自分は喜んで採用試験に行ったところ、数日後には採用の内示が大学に

届いていました。その会社は高速道路の設備保守や建設監理の業務の会社でした。私は高速道路の通



信設備、搬送設備、構内交換電話等の保守業務に就きました。通常は設備の点検、故障時の原因究明、修理等が主な仕事でした。当時は高速道路にこんな設備があるとは思っていませんでした。その他、各ICやSA,PAには受電設備、照明設備、道路情報板、道路には気象観測設備、速度規制標識、非常電話、トンネルには防災設備、照明設

備、換気設備、トンネル内カメラ、放送設備、その他、最近ではVICS、ETC等も加わり多数の設備が設置されています。それらの設備が故障しないように各専門の担当者が保守をしていました。

現在は、設備の運転監視を行う施設制御室に勤務しております。守備範囲は東北全地域の設備ですが関東や北陸との関連も担当しています。24

時間体制です。夜勤もあり、土曜日曜正月、お盆の区別がなく、交替勤務になっていて体力も必要

です。設備の運転監視はもとよりトンネル内での車両火災対応、ひいてはお客様の対応まで結構広範囲に及びます。我々の業務は普段、お客様にはお目に触れることはありませんが、車で高速道路をご利用された時は、各種設備が日夜目に見えないところで保守、運用されているということを思い出していただければ幸いです。

## 工大人で 未来を拓こう



㈱阿部和工務店 代表取締役社長

**船山 克也** (ふなやま かつや) 氏

1965年 宮城県丸森町生まれ  
1989年 土木工学科卒(19回生 浅田研)  
1995年 ㈱阿部和工務店入社 現在に至る

工大土木工学科を卒業して、20年になります。

私が過ごした、20年前と比べると、学校の施設関係は、充実し、とてもすばらしい環境の中で、後輩の皆様は学生生活を過ごされているのではと思っております。

その一端の施設である八木山キャンパス1号館の建替工事を戸田建設(株)東北支店と共同企業体でご下命いただきましたことは、弊社としても大変光栄でありました。任命された工大OBの担当者は、自分の母校を工事ができる幸せを胸に、張り合いを持って仕事に専念できたようです。この新しい施設を巣立った、後輩たちがこれからも多く社会で活躍されることを、ご祈念しております。

私が就職した職場には、工大の先輩も多く、仕事や人生に対する考え方等たくさんの方を教えていただきました。

また、経営者となってからも、多方面で活躍されている工大OBの先輩に、多くのご指導をいただいております。

先輩方が、公的な立場で、いろんな職場において重要なポジションに就く方が多くなり、

宮城県内いろんなところでも、お会いする機会が多くなってきております。

以前、あるマンション改修の工事において、マンション管理組合理事長を工大土木工学科(浅田研)の先輩がなされており、ご指導をいただきながら、施工させていただきました。大変お世話になり、ありがとうございました。初めてお会いするお付き合いの中でこのようにすばらしい先輩方が多く社会で活躍されていることは、同窓生としても誇りであり、心強いことであると思います。

建設業界は、大変厳しい時代を迎えております。私はまだまだ未熟者ですが、建設業を天職と思いこれからも、この道で努力していきたいと思っております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

新学部新学科設立を期に、東北工業大学の益々の発展と、工大関係者の皆様と、同窓生の皆様の方々の益々のご活躍をご祈念申し上げます。



八木山キャンパス

## More better を探して



サイドック株式会社  
**柴田 浩人**（しばた ひろと）氏  
1961年 仙台市出身  
1979年 工業意匠学科入学  
1984年 工業意匠学科卒業  
サイドック株式会社入社

工大を卒業して早25年の月日が流れました。

高校時代は工業高校の電子科で学び、工大の工業意匠学科に入ったのですが、この一見全く関わりの無さそうな二つの科目が、実はその後の自分の仕事に大きく関係するとは、その時夢にも思いませんでした。

現在、私の仕事は工業包装というもので、平たく言えばTVや家電製品の緩衝材を設計・開発する会社にいます。

実際には、大部分の人達が普段殆ど目にすることがない、工場と工場を繋ぐ包装材を手がけることが多いのですが、これが前述の二つの科目の経験と大いに繋がっているのです。

工業包装と言っても多種多様あり、私の場合電気・電子部品を中心としていた為、高校時代の知識で、その部品達の短所がどこに有るか良く分かり、長所を生かし短所を保護する設計を最適に進める事が出来ました。

また、商業製品を手掛ける場合は、売上向上の為、より良く見せることが必要で、包装デザインも重視されます。これも工業意匠で訓練したデザイ

ンの進め方やプレゼンテーション手法が、大いに役立ちました。

一見、関係ないと思っていた勉強や知識も後から皆役に立っていたことを改めて感じています。

今の私は、会社の本流である商品とは全く違う物を日々開発していますが、これも後々気付けば、また違った発見があるかも知れません。

日々の開発でいつも感じていることは、「ベスト」は無くても「ベター」それも「モアベター」を探すのが大事なのだと思っています。

これから、何年この仕事を続けていくか分かりませんが、全てが将来の自分に役立つものと思って少しずつでも進んで行きたいと考えます。



液晶関連搬送用開発商品

## 社会に役立つ「工事屋」



東日本旅客鉄道株式会社 東北工事事務所  
**村上 智美**（むらかみ ともみ）氏  
仙台市出身  
2001年 環境情報工学科 入学（1回生）  
2005年 環境情報工学科 卒業（橋本研究室）  
東日本旅客鉄道株式会社 入社

私がいる JR 東日本東北工事事務所は東北地区の駅舎改良工事や立体交差化工事、橋梁改築など、地域社会に役立つ大規模なプロジェクト工事を推進しています。

その中で私は電車で電力を供給するための電車線設備工事の設計を行っています。設計では駅舎構造物や土木構造物がどのようなステップを経て、どのような形に完成するのかを踏まえ、関係箇所と調整を行いながら電車線設備の工事方法や設備仕様を検討しています。設備を自分の目で確認し設計へ反映させることを重視しているため、自分で現場へ赴き、納得がいくまで検討を行います。工事は毎日運行されている営業線で行うため、工事途中でも安定した電力を確実に電車へ供給できる設備でなければなりません。そのため、各種規定値を満たした設備となっているか、安全で確実な施工環境を提供するにはどの時期に工事を行うのが良いか等を考慮しています。また、設計業務と並行して今以上の「安全・安定輸送」を実現するため、新技術の研究

開発にも取り組んでいます。

もう1つの顔として、工大担当のリクルーターとして会社説明会等も行っています。そのため、卒業後の今でも就職活動時期ともなれば工大に通っています。会社説明会では、自社の説明・アピールはもちろんのこと、自分が学生時代に不安だったことや聞きたかったことなど、自分の経験を率直に話すように心掛けています。

「環境情報工学科」とは全く無縁な鉄道電気の仕事で毎日が勉強の日々ですが、将来、「電車線設備のプロ」になり、「社会に役立つ人」になることが目標です。

最後になりましたが、工大の益々のご発展と同窓生の皆様のご活躍を祈念致します。



現場測量中

# 学生よ！興味と目的を持って、自分の意志で動け！ 母校にはそんな教育を望みたい。



## 株式会社阿部和工務店 (宮城県仙台市)

船山：弊社はおかげさまで、創立40周年。そのパーティーには、延べ600名の施主と協力会社の方々をお招きしました。弊社は何より「人の和」を大切にする企業です。



船山克也氏

仕事は建築工事が主体ですが、現在は時代の流れで民間工事の比率が多いです。一般住宅、リフォーム工事、オフィスビル、店舗、工場等、建築全般です。最近は古民家再生も手がけており、高い天井や、囲炉裏で燻された柱、梁等の骨組みを残し、高気密、高断熱の近代的な建物にする工事です。築100年200年という古民家は残っている数が少なく、物件数はわずかですが、技術は認めて頂いていますし、お客様に喜んでいただいています。その他、築10年以上のマンションの外壁、防水の改修リニューアル工事、老人福祉施設、病院改修、店舗、工場、ゴミ処理施設の工事等、厳しい建設業界で生き残るため、多方面の仕事をしています。

また弊社では、売買目的ではなく、お客様へのサービ

スのために農場を開いて米を5町歩作っています。近年建設業界が不振で、他の産業へ進出を行政が勧めているようですが、弊社はそれ以前から農業をやっていました。「ものづくり」の根底に有るものを学ぼうと、新入社員は田植えや稲刈りの手伝いをさせ、八十八回手をかける米づくりを通じて、「ものづくり」の本質を体感してもらいたいと思っています。

### ■独自の社員教育ですね。

船山：本来の仕事面では、レベル毎に分けた社内の教育をやっています。

その他、毎年社長と社員数名が「高野山まいり」に行きます。高野山には大企業の会社墓や職人さんの慰霊塔等もあり、法要が行われます。どんと祭の裸参りも毎年参加していますし、社会奉仕活動として、50歳以下の社員全員参加で毎朝会社廻りの道路の清掃活動もしています。冬などは木町通り小学校の通学路等の除雪もします。このような、「心」を育てることを念頭においた社員教育をしています。

ISO取得も1999年12月と、他よりも早い取得でした。

### <出席者>

船山 克也氏／取締役社長  
1989年土木工学科卒（19回生）・浅田研究室  
庄司 充宏氏／専務取締役  
1980年建築学科卒（11回生）・鈴谷研究室  
早坂 伸一氏／積算部 主任  
1988年土木工学科卒（18回生）・高橋（龍）研究室  
大豆生田敏男氏／工事部 所長  
1995年建築学科卒（26回生）・桂研究室  
石川 祥和氏／工事部 所長  
1998年建築学科卒（29回生）・鈴谷研究室  
伊藤 智行氏／建築部  
2004年建築学科卒（35回生）・阿部（良）研究室

### <聞き手>

秋元 俊通／本学同窓会会長・（株）秋元技術コンサルタンツ代表取締役社長（1975年土木工学科卒）  
古賀 秀昭／本学就職部長・環境情報工学科教授（写真／前列右端）  
高橋 郁生／本学キャリアサポート課 課長（写真／後列左から2人目）  
谷津 憲司／本学建築学科教授（1970年建築学科卒 1回生・写真／前列右から2人目） 他



（株）阿部和工務店が建設した本学新一号館全景

## ■社員の資格取得の奨励や、モチベーションをあげるための施策は？

庄司：技術部門では、月2回勉強会を実施していますが、1級建築士の受験者を対象に、週1回部長クラスがカリキュラムを決めて講義をしています。CADを覚えなくてはいけない年齢層のために、専用のCAD室を設け、週1回講習しています。昔、施行図は現場で先輩が教えたものですが、今は忙しくてなかなか時間が取れない状態です。

現在工大OBは28、9人在籍しており、建築科出身が圧倒的に多いです。仕事柄、土木工学科出身者も必然的に建築の資格を取ることになりますし、建築科出身者も、測量士が取得できます。

## ■工大出身者の様子は？

庄司：ここに出席している若い人達は根っ子が生えてきた所です。どの企業でも、どの大学出身でも同じかもしれませんが、最近の人は会社を辞めるのが早い。しかも他業界へ簡単に転職する傾向です。

## ■工大出身者の良さは？

庄司：私は構造の鈴谷先生の研究室だったので、基本的な構造のバランスが感覚的に身に付いていると思います。

伊藤：私も阿部研で構造をやっていました。そのとき学んだモーメント計算等の基礎知識が頭の奥にあり、いざというときに役に立っています。

古賀：大学で習ったことを徐々に思い出し、実際使えるようになるのじゃないのかな。

伊藤：大学では手がかりを学ぶということ。ゼロからではないということです。

庄司：構造は手計算でしたが、まだ取ってあります。今は使えませんが、入社当時は5、6年は役に立ちました。

古賀：「姉園事件」がありましたが、あれから構造と積算のやりかたが変わりましたか？

庄司：設計は設計部でやりますが、構造計算はほとんど外注です。「姉園事件」はあり得ない事で、やってはいけないこと。あの事件の影響はすごく大きい。

高橋：姉園建築士は工大出身者などという、あらぬ噂がネット上で流れてしまって困りました。

資格取得関連についていえば、21年度入学生から、制



庄司充宏氏

度が変わります。新しい制度では、資格を得るために大学自体が認可を得なければならなくなりました。カリキュラムの内容が審査され、新しい学部学科創設時のような審査があります。

学生も、ただ卒業すれば取得資格を得るのではなく、所定の課程科目の単位を取得し、卒業した学生が初めて資格を得るチャンスがある、というように。「姉歯事件」はそれ位の大きな影響力がありましたね。

**庄司:** あれはまさしく倫理の問題ですね。

#### ■大学へ要望はありますか？

**庄司:** 最近面接をすると、部活に入っている学生がほとんどいないのが気になります。

部活をしてきた学生は、苦しい事や悩みとか、ある程度の壁を越えてきた人間という気がします。最近刃物を振り回す事件がありますが、部活動をやってきた人間はそんなことはしないと思います。部活はモラル、道徳、がまんとか、授業では教わらないことを学ぶ場ですね。

#### ■入社試験はどのようにやるのですか？

**庄司:** 筆記試験と面接です。面接は2度3度とやるので、ウェイトはかなり大きいです。

面接での態度等はひとつとおりは見えています、それが重要なポイントではありません。面接官個人の判断はあると思いますが、話題に出るのは受験者の声の大きさや笑顔など、「明るさ」です。

**古賀:** 今の学生は昔の学生より手がかかります。授業中に

平気で食事を始めたり、立って歩いたりします。ペットボトルを机の上に置いて置くのは今や当たり前なのですから。

**谷津:** 授業中帽子をかぶったままや、一時間半の我慢ができない学生が多いですね。

**早坂:** 大学は茶髪を認めているんでしょうか？ 建築業界の企業には茶髪や髭の人は見かけません。

私は積算の仕事をしていますが、最近箱に数字を入れれば答えが出てくるといった感覚の人が多いですね。そのような思考はやめてもらいたい。

コンピュータが一般的になって十数年ですが、この業界も確実に変わりました。昔は答えを得るのに自分が能動的に仕掛けなければコンピュータも動きませんでした、現在はいろいろのソフトウェアがあり、それを使えば勝手に答えが得られる。

もう少し創造性があった方がいいと思います。会社からのお仕着せではなく、自分からアプローチしていく努力が必要です。

**谷津:** 自分の手綱を人に預け、適当に引きずり回してもらった方が楽だという感覚で、みんなひとまかせ。そういう人が多くなっています。

**早坂:** 大学の建築学科では手書きの製図の授業はないのですか？

**谷津:** 1年生でやります。手書きが下手だとコンピュータを使っても下手。センスの問題もありますが、手で書かないと、コンピュータを使って



早坂伸一氏

もうまくいきません。

**秋元:** 今日の御社出席者は「クールビズ」は誰もいませんが、申し合わせですか？

**庄司:** 社内でも何度か協議しましたが、結果、弊社は「クールビズ」をしないということになりました。だらしなさは管理出来ないということでしょうか。

実はこれには経緯があります。弊社オーナーが以前、暑いので、ワイシャツ姿でお客さんを訪問したら「裸で来たのか」と言われたそうです。以来、暑くてもきちんとして、ネクタイを着用です。「クールビズ」を実施しているお客さまばかりではありませんから。

**谷津:** 会社に入って「目から鱗」の瞬間や、プロに目覚めた瞬間があったら教えて下さい。

**大豆生田:** 上司から厳しい指導があったときや、職人さんのシビアな面、お金に関してや仕事の段取りに接した時に肌に感じました。今でこそ、仕事は自己責任だとわかってきましたが、当時は何もわかりませんでした。

**谷津:** 仕事を任せられる時期やタイミングは？

**大豆生田:** 本人がやりたいと思った時期が会社が任せてくれる時期だと思います。自分の意識が変わらないうちは会社も任せてくれません。

**谷津:** 逆に、部下にはどのような瞬間に、仕事を任せてもいいと思うのですか？

**庄司:** 一番「やる気」。「やる気」があれば、そのあとは上司の

自分がカバーしていけばいい事です。入社一年で、やりたいと手を挙げる人もいますが、個人差はあります。

#### ■そういう意味で、2週間のインターンシップは有効だと思いますか？

**石川:** 昨年、現場に工大生3名を受け入れました。他の学校からも時期をずらして合計8名受け入れましたが、高校生は三日間だけ。あまり短期間では、遊びに来たのかという印象を持てしまいます。

インターンシップは価値はあると思います。半年くらいは必要かと思いますが、逆に企業側から見ると、半年の受け入れは厳しい。

**高橋:** インターンシップは国の方針ですが、2週間付きっきりというのでは受け入れ先に本当に申し訳ない。迷惑をかけるんじゃないかと腰が引けてきます。

**船山:** 単純に労働者として受け入れるのとは違いますね。正直言って2週間や10日ではどうにもなりません。

#### ■では、大学への要望を。

**庄司:** 資格取得なら、専門学校へ行けばいい。大卒にはブラスアルファがあるはず。ただ、現実に専門学校生は建築施工技術者の資格を取得してから入社してきますが、大卒者にはそういう努力が見えない。とはいえ、本来大学に求める所はバランス。バランスよくセンスを働かせることを鍛えて欲しいです。



石川祥和氏



大豆生田敏男氏

技術は我々が教えるので、知識は大学に教えてもらいたい。また、学生にも「技術屋になる」という意識がないのでは。入社時には当然「建築の技術屋になる」という意識と誇りを持って入ってくるものと期待しているのですが、そうではない事が多々あります。学資など多額の資金を親に投入してもらいながら、簡単に仕事に未練はないと言い、他業種への転職を考えたりするのでから困ります。

大学の4年間で「ものづくり」の喜びを味わわなかったのではないのでしょうか。

**谷津:** いやいや、学生も作る喜び、達成する喜びは在学中に経験しているはずです。「技術屋になる」というのは、仕事を極めるということを意味しているのだと思いますが、確かに学生が突き詰めてやらない部分はあるかもしれません。世の中には面白い事が多すぎて、気が散るのかもしれないね。

知識を与えることも大事ですが、問題をどう掘り起こし、どう解決するかということが大事なのは。講義よりネットから得た知識の方が遥かに高度だったりする現代、その中で自分の課題をどう見つけて行くのか、それをどう伝えて行くのかを考えて行こうとしています。それが、大学のやるべきこと。大学で教えられた事は社会ではほんの基礎的なことでしょうか、それをどう引きだして、どう使っていくかが大事ですね。

**庄司:** 設計と積算はかなり違います。いい建築物を造りたいという設計と、コスト追求を

する積算ではどうしても噛み合いません。会社の実務としての設計と、大学で学んでくる設計とのギャップがかなりあります。知恵の出どころが違います。それらの技術者をまとめるマネジメント的なことも重要な仕事です。会社では、授業でやらないことを守備範囲としてやることが多いものです。

### ■社内に工大のOB組織がありますか？

**庄司:** 社内に学閥的なものを作ることは、会社組織として疑問もありますし、特に必要性は感じていません。それでも、今年の求人は工大卒者6人を念頭に置いています。

工大生は素直なのですが、個性がないとも言えますね。

**早坂:** 工大は競合する私学が同地域にないので、競争心がないのではないのでしょうか。

**稲山:** 小学校のころから、「皆、平等」という教育が問題なのではないですか。社会へ出るとそうはいきません。

**谷津:** 工大建築科から御社を受験するのは30～40人くらいと、毎年、学生全体の四分の一近くが受験します。あまり多くて御社では迷惑なのではないかと思ってしまうくらいです。

**古賀:** 多くの学生が受験するということは、それだけ御社が地元の優良企業だということでしょう。

### ■学生に対してアドバイスを。

**伊藤:** 私は工大新1号館の建設に携わったのですが、入社希望の後輩に、新1号館を建設した会社名を尋ねても、知らないというのですからガッ

カリさせられました。学生には意識を持っていろいろな建築を見て欲しいです。

**石川:** 学生時代の早い段階で目標意識を持つべきです。

私は山形県の工業高校出身ですが、なんとなく工大に進路を決めました。今の学生も、当時の私同様に「何をしたい」という目的や目標が無いのでは。学校側も学生に対して早い段階で導いてやり、考える機会を与えてやる事が大事だと思います。

**大豆生田:** 物事をやるときは興味を持ってやってもらいたい。何かに興味をもって打ち込める人間は他のことにも打ち込めます。それが目的意識に繋がって行きます。興味を持たなければ、現場の横を通っていてもどこの会社の現場か分からない、何を見てもただの白い壁でしかありませんよね。

私も工大の新1号館建設で母校に通いましたが、学生のいたずらやタバコの吸い殻が学内に目につきました。感じたのは、学生のモラル教育の必要性です。

**早坂:** 大学で勉強した事は社会では関係ないと言う人がいますが、そんな事はありません。大学は根っこに「こやし」をもらうところです。人よりよい根が張れるし、人より少しよけいに枝も増えます。それが大学だと思います。そういう機会を親に与えてもらった事に誇りを持ってもらいたい。社会人になって学校なんて関係なかった、無駄になったと



伊藤智行氏

いう事は絶対あり得ませんから、工大出身のプライドを持って欲しいです。

**庄司:** 大学では何事も一生懸命やって欲しい。

我々が学生時代の工大は、まさに手に職を付ける大学でしたが、今の工大は総合大学になりつつあり、学生の意識も集中力が希薄になってきているのでは。腰掛け程度に就職を決め、すぐ転職。それでは企業は困ります。

そうではなく、自分が今その学科に存在している理由を考え、就職する会社の事をよく調べて欲しい。そして企業に入ったらワガママでもいいから、自分の意志で行動して欲しい。

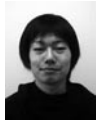
**稲山:** 私は就職していい上司にめぐりあいました。工大の先輩でしたが、仕事はもちろん、生き方なども学びました。仕事ができ、部下にも的確に指示し、部下がつまずくといいたいタイミングで助けてくれる。そういう上司は素晴らしいと思うし、そうなりたいと思いました。そのような、目標とする人がいると、そうなりたいと思う事で、一つ一つに興味がわくのではないのでしょうか。自分も後輩にそういう背中が見せられる先輩でありたいと思っています。

会社ではお客さんを納得させたり、説得したり一般常識を織り交ぜながら進めていく「人間力」「交渉力」が必要です。そこが専門学校と大学との違いだと思います。会社でも社員教育はしますが、大学はそのような教育を望みます。

■最後は、大学への要望になりましたね(笑)。

ありがとうございました。

(2008年8月5日取材)



## 達成することへの喜び

情報通信工学科 4年 小野寺 孝輔さん  
受入企業／東京ドローイング（株）

私は三年生の夏、東京ドローイング株式会社で五日間のインターンシップに参加してきました。主な業務内容として総合設計業、回路設計、LSI 設計等を行っています。実際に企業に行き、大学での知識や経験が、どの程度通用するのか挑戦してみたかったのです。また実習を行うことで、働いている社員の方々と直接お話ができ、これから就職活動をする私にとって自分自身を知ることのできるよい経験になると思い、インターンシップを受けようと思いました。

実習内容では VHDL 言語という、今まで聞いたことのない言語を使い実習を行いました。この学習は、大学でも学習したことのない言語だったので、慣れるのに苦労しました。これは、実際に新人研修でも行っている実習内容だと知りました。実習を行っていく上で、大学で学んでいる電気回路や、プログラミングの基礎知識がとても役に立ちました。実習中は、私一人だけの参加でしたが社員の方々が気を使って話しかけてくれたので、とても有意義な時間を過ごすことができました。実習最終日には自己回路作成というものがあり、これは社員の方から、課題を出題されプログラミングを作成していくものでした。何度も、エラーが出てしまい、なかなか思ったようなプログラミングがかけず社員の方に教えてもらいながら、やっとの思いで完成することが出来ました。完成したときの達成感は、何とも言えない喜びでした。普段生活している時の喜びとはまた違い、この時私は『仕事っていいな!!』と実感しました。今回インターンシップに参加してみて、改めて自分自身を見つめ直す事ができました。この経験を活かして、新たな一歩を踏み出していきたいです。



## 将来を模索して

建設システム工学科 4年 八重樫 絵理さん  
受入企業／宮城県庁土木部下水道課・（株）復建技術コンサルタント



「もっと社会に貢献する仕事に就きたい」との思いから大学に入学して3年。社会生活を影で支え、環境と人間との間の橋渡しのような土木の分野に魅力を感じ、卒業後は土木技術者になるのだという気持ちだけははっきりしていたものの、職種に関しては漠然としていました。そこで3年の夏季休業中に、土木分野の公と民の両側面を身をもって体験しようと考え、宮城県庁土木部下水道課と株式会社復建技術コンサルタントで研修をさせていただきました。

始めに、県の下水道行政全般を担う宮城県庁土木部下水道課では、計画立案・見直し等に関わる行政面での仕事が多いため、技術者に止まらないゼネラリストが求められていました。土木職公務員の試験で専門が問われるだけに、それは意外な発見でした。

続いて、東北地方を基盤に発展される建設コンサルタントである株式会社復建技術コンサルタントでは、プロゆえの仕事の厳しさを実感しました。当初私が抱いていた設計業務に対する華やかなイメージに反して、業務時間の緊張感あふれる雰囲気や、社員の方々の仕事に対する熱い姿勢には圧倒されました。

この経験をもとに改めて進路について考えた結果、プラントエンジニアとして環境保全から社会に貢献したいという結論に達し、その後の就職活動では希望する企業より内定をいただくことができました。

私にとってインターンシップは、進路の幅を広げてくれた貴重な経験であり、すべてが自分の糧になっていると感じています。濃やかにご指導してくださった皆様に、心より感謝申し上げます。



## ものづくりの優しさ

デザイン工学科 4年 内海りかさん  
受入企業／（株）共同システムサービス

私は、木が好きなので木材に関わった仕事を体験してみたいと思い、インターンシップに参加させて頂きました。実習先は、からくり工房ハンズピコさんで8日間、【新しい木のおもちゃの考案】という課題を体験させて頂きました。今まで見たことのない大きな機械や、暑くて汗だくになってしまう作業場。実際に経験させて頂くことで、働くことの大変さを知りました。また、ハンドメイドの木のおもちゃが出来上がるまで、作り手側の優しい気持ちがいっぱい加わっていることも分かりました。安全に子供が遊べるように、細やかな配慮に感動しました。そして、社長をはじめ職場のみなさんが、とても気持ちの優しい方ばかりで、私が悩んだり息詰まった時は、みんなが自分の作業の手を止めて、私の課題を一緒に考えて下さいました。

私は、今回のインターンシップで、木のおもちゃに関する知識を学びながら、人の心に大切な温かい気持ちを沢山感じることができたと思います。私も、人として心を持った優しいものづくりをしていきたいと思っています。

本当に素敵な経験をさせて頂きました。ありがとうございます。



## 環境情報工学を生かせる公務員の業務

環境情報工学科 4年 菊地 一久さん  
受入企業／宮城県環境生活部環境対策課

私は平成 19 年の夏に宮城県庁のインターンシップに5日間参加しました。そこでは主に環境生活部環境対策課および関連する施設・研究機関の業務風景を見ることができました。

宮城県庁のインターンシップの参加を決めた理由は、行政の立場で県の環境問題に取り組んでいる方々とその活動を知りたかったからです。そして環境生活部環境対策課へのインターンシップを申し込んだ理由は、私が現在学んでいる環境分析に関しての業務をその課が主に行っていることを知ったからです。そこから行政の現場で環境分析がどのように行われているか、どの機関が関わっているかを知りたいと思ったからです。

そしてこのインターンシップより学んだことは次の2点です。

- ①物理および化学分析の勉強が宮城県の行政業務に最も反映できる仕事先のひとつは宮城県保健環境センター内であることです。これは同センター内の大気環境部および水環境部の業務説明を受けて分かりました。
- ②取り組む業務の属性によって所属が違うことです。例えば化学物質の排出量・移動量の集計は環境対策課環境安全班が携わっていました。また海藻を利用した水質浄化事業は同課水環境班が携わっていました。これから、私たち大学生が公務員として働く際は業務の細分化による専門性の要求に対応できる能力を身につけなければいけないと感じました。そしてこの体験から、私たち東北工業大学の学生がやがて社会に貢献する方法の一つとして公務員という道があることが分かりました。

最後に、私の稚拙な文章を読んで頂いた工大の在学生の中に公務員になりたい、あるいは公務員に興味を持つ方が増えていただけることを願っています。

## 青森支部同総会 2008

青森支部幹事

黄金崎 勉(こがねさき つとむ)

1980年 建築学科卒 (11 回生)

平成 20 年 6 月 7 日(土) 青森県支部同窓会が青森市内のアラスカ会館にて開催されました。今回の同窓会は父母懇談会の終了後にあわせて開催されたため、同窓会会長の秋元様、副学長の今野様を、はじめとする多数の教職員の方々、後援会の方々を来賓にお迎え出来、盛大に開催されました。

毎回、フリーアナウンサーである大竹先輩(電子工学科 4 回生)に、司会をお願いしており、今年も和やかな中での開会となりました。

来賓祝辞の中では、今野副学長より、映像を写しながら大学の近況報告を交えたご挨拶をいただき大変ありがとうございました。

会場内は、学科ごとのテーブル配置となっておりましたが、それを超えた歓談の輪となり時間もあっという間に過ぎたような気がします。

別会場で開催された 2 次会も 40 名の参加者があり話は尽きなく、次回の再会を硬く誓い合い解散となりました。

今回は、青森地区 34 名、弘前地区 3 名、十和田地区 4 名の出席でしたが、次回は、さらなる声かけに努め、情報交換の場にさせていただきたい思います。

同窓会の名簿も、今回欠席者の分も含めて確実に増えており、この『工大人』を読んでいる同窓生の皆様にも是非連絡いただきますようお願いいたします。

同窓会支部ゴルフコンペも 9 月 27 日に予定され、なお一層の交流が期待できそうです。

次回また新たな人との交流が深まりますことを期待し、お世話になりました皆様に深く感謝申し上げます。

## 第12回新潟支部会総会を終わって

新潟支部会 会長

篠川 恒(ささがわ ゆみはる)氏

1973 年 土木工学科卒

現在 新潟市水道局中央事業所工務課勤務

2 度の大きな地震災害で大きな打撃を受けられた方々に心からお見舞いを申し上げます。

早急な復旧・復興を願っています。

さて新潟支部会は 6 月 7 日に後援会主催の父母懇談会と同日開催し、第 12 回支部会総会を無事終了いたしました。

父母懇談会に来られた先生方と父母の方そして同窓会会員で懇親会を開き、学校のこと、就職のことなど色々な意見交換が出来ました。今回は 21 年入学希望の生徒父母の方がお見えになり有意義な意見交換が出来ました。

新潟から直通の列車がなくなったり、生活圏が関東に

向かっていること、新潟にも大学が増えたりしたためか工大に受験する生徒が少なくなっている状況があり、今後受験生を増やす手段がないものか話題になっておりました。

10 月の工大祭に合わせ、今回初めて後援会支部と同窓会支部合同で工大見学会を開催し今の大学の状況、そして就職を控えている新潟出身者との懇談会を開催し意見交換会が出来たらと考えています。

支部の活動もマンネリ化せず、新しい企画を考え今後とも後援会と協調し工大発展に寄与したいと考えています。



平成 20 年青森県支部同窓会

# 東北工業大学同窓会 第24回定時総会のご案内

開催日時：平成20年10月4日(土)

定時総会／16：30～17：30 懇親会／17：30～19：30

会 場：仙台ホテル

(仙台市青葉区中央1-10-25 ☎022-225-5171)

議題：①平成19年度事業報告 ②平成19年度決算報告 ③平成19年度監査報告  
④平成20年度事業計画 ⑤平成20年度予算案 ⑥役員改選、その他

懇親会参加費：3,000円

※尚、参加費は当日会場にて徴収いたします。

本学は、今年度よりこれまでの工学部に加え新学部「ライフデザイン学部」を新設し、新たな時代へと船出いたしました。

積み重なる本学の歴史に従い、本誌「恩師からの便り」に寄稿される先生方も年々増え、同窓生の皆さまとしては寂しさを拭えないのではないのでしょうか。

ご多用中のことと存じますが、定時総会後の懇親会には多くの先生方もご臨席されます。同級生、研究室やクラブの同窓生等、お誘い合わせの上、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

卒業された皆様へ

## 東北工業大学同窓会 会費未納の方へ

同窓会会費は会員間のネットワーク化事業、在学生への支援、支部活動の推進、本学および本学後援会との共同事業等を進めるために有効に活用しております。つきましては、同窓会会費未納の方は、別紙郵便振替通知書で、早急に納入いただきますようお願い申し上げます。

●終身会費 20,000円

(5,000円×4回・10,000円×2回の分割納入方法もございます)

●郵便振替口座

02280-5-22263 東北工業大学同窓会

※すでに納入済の会員には、郵便振替通知書は同封していません。

本会運営の趣旨をご理解の上、この通知をご容赦ください。

### 同窓会・後援会事務局スタッフ、佐藤久美さんのご紹介

今年4月より長町キャンパスから八木山キャンパスに異動してまいりました。新しい環境のなか同窓会と後援会の事務局を担当することになりました。両会長をはじめ皆様のご指導のもと頑張っていきます。

本年度より、東北工業大学は新学部が設置され、新しく生まれ変わりました。これからは同窓会、後援会が情報交換の場として、もっと利用されるよう努めて参りますのでどうぞ宜しくお願いいたします。



佐藤 久美

発 行：東北工業大学同窓会

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内 〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1

TEL.022-305-3336 FAX.022-305-3337

URL.<http://www2.odn.ne.jp/~aan98460/>